

2022.1.22 令和3年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンス(九州・沖縄ブロック)

「Let's try it !!」～経過報告～

「実践×想い」

～県北地区のChallenge!～

報告者:地域福祉コーディネーター 成合進也

「一人ひとりが主人公！、一人ひとりがサポーター！」

◇一人ひとりが主人公（あらゆる生活課題への対応）

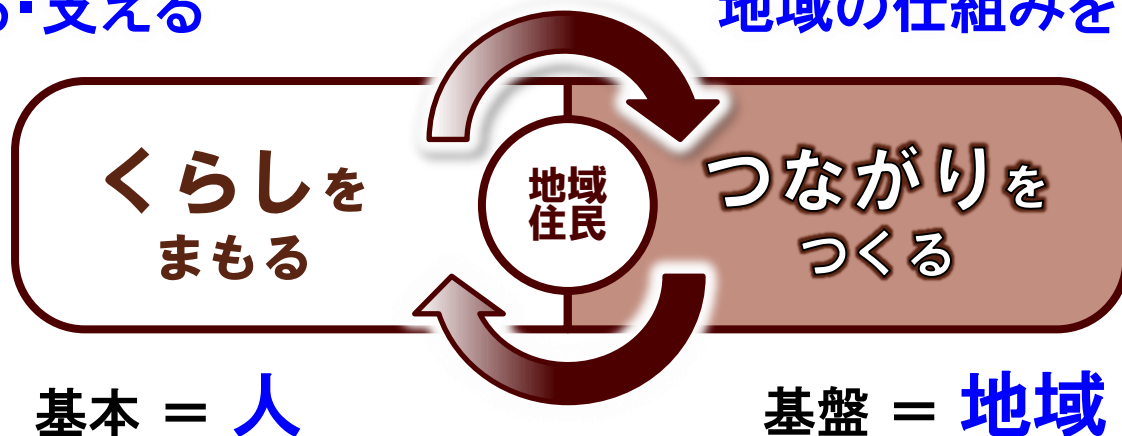
地域に暮らす住民一人ひとりが、その人らしい自立した生活をおくることができるように、地域生活課題を丸ごと受け止め、サポートする相談・生活支援体制の充実・強化を図る。

◇一人ひとりがサポーター（地域のつながりの再構築）

地域に暮らす住民一人ひとりが、住民や地域生活に関心を持ち、暮らしの中にある個別の生活課題を「**他人事ではなく我が事(自分事)**」として理解し、生活課題解決のために自分たちにできることを考え、実行する**住民相互のサポート体制づくり**を進める。

いのちや暮らしを
守る・支える

暮らしや生活を支えるための
地域の仕組みをつくる



ライフステージにおける学び



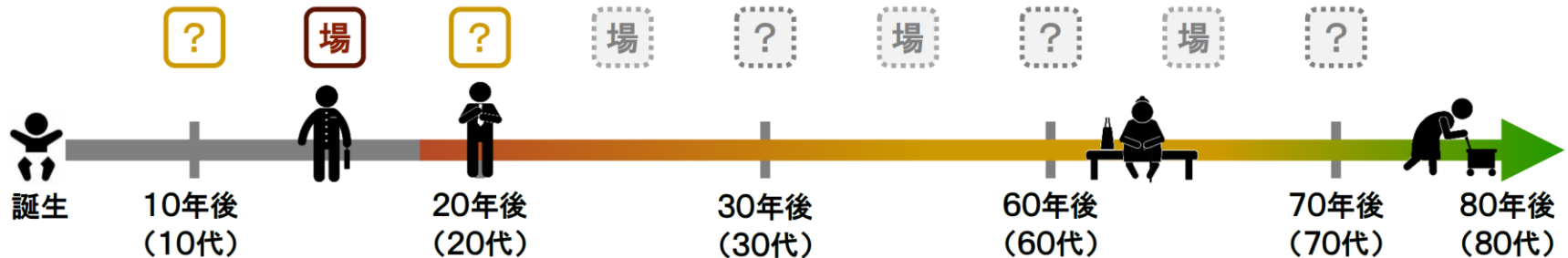
学びのニーズ

▷ 学びたいこと！ チャレンジしたいこと！



学びの場 学習プログラム

▷ 出会い、対話、生きがい、社会参加



課題認識…

各ライフステージにおいて、
誰もが、その人らしくしあわせに生きることができるのか？

- ▷ そのための**出会い場、学びの場、考える場、つなげる場**など、必要な「**場**」があるのか？
- ▷ その「場」づくりのための**社会的な仕組み**はあるのか？
- ▷ その仕組みは目指すゴールに向かって**機能**しているのか？

「共に学び、共に生きる社会の実現のために…」

[実践プロセス]

福祉教育、地域福祉実践サイクル

地域の福祉力UP
地域共生社会実現

評価・検証の場
動く場(協働の場)
考える場(企画場)
つながる場
知る、学ぶ場
出合いの場

5. 活動分析・評価、仕組み化する！
活動効果検証、改善、システム化

4. 動く！ 動いて変える！
考えた「action plan」を実践する！ 動くことで変化！

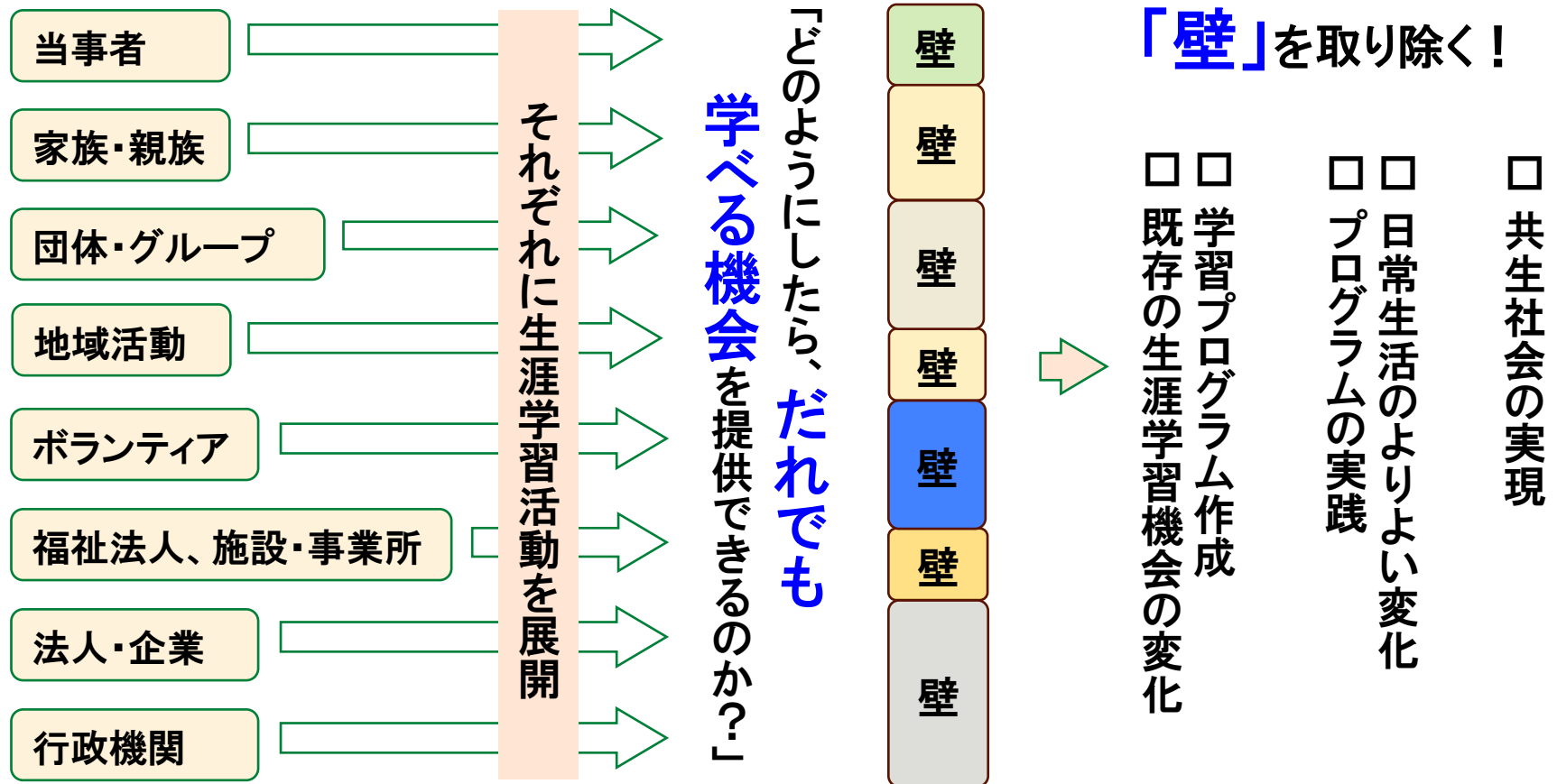
3. できることを考える！ よりよい地域生活のためにできることは？
課題解決のための「action plan」考える！ ※「だったらどうする？」

2. 地域を知る・理解する！ 暮している地域社会に興味・関心を持つ！
地域の現状(生活課題)について知る ※「我がごと」意識の醸成(主体形成)

1. ふくし(共生)について知る・学ぶ！ 「ふだんの 暮らしの しあわせ」追及
誰もが自分らしくしあわせに生きることについて学ぶ(考える) ※共に生きる！

Point:「誰かが」ではなく、「誰もが」 主体的に学び、考え、動く！

だれもが学べる機会づくり…



障がいのある人の学びの現状を知る！

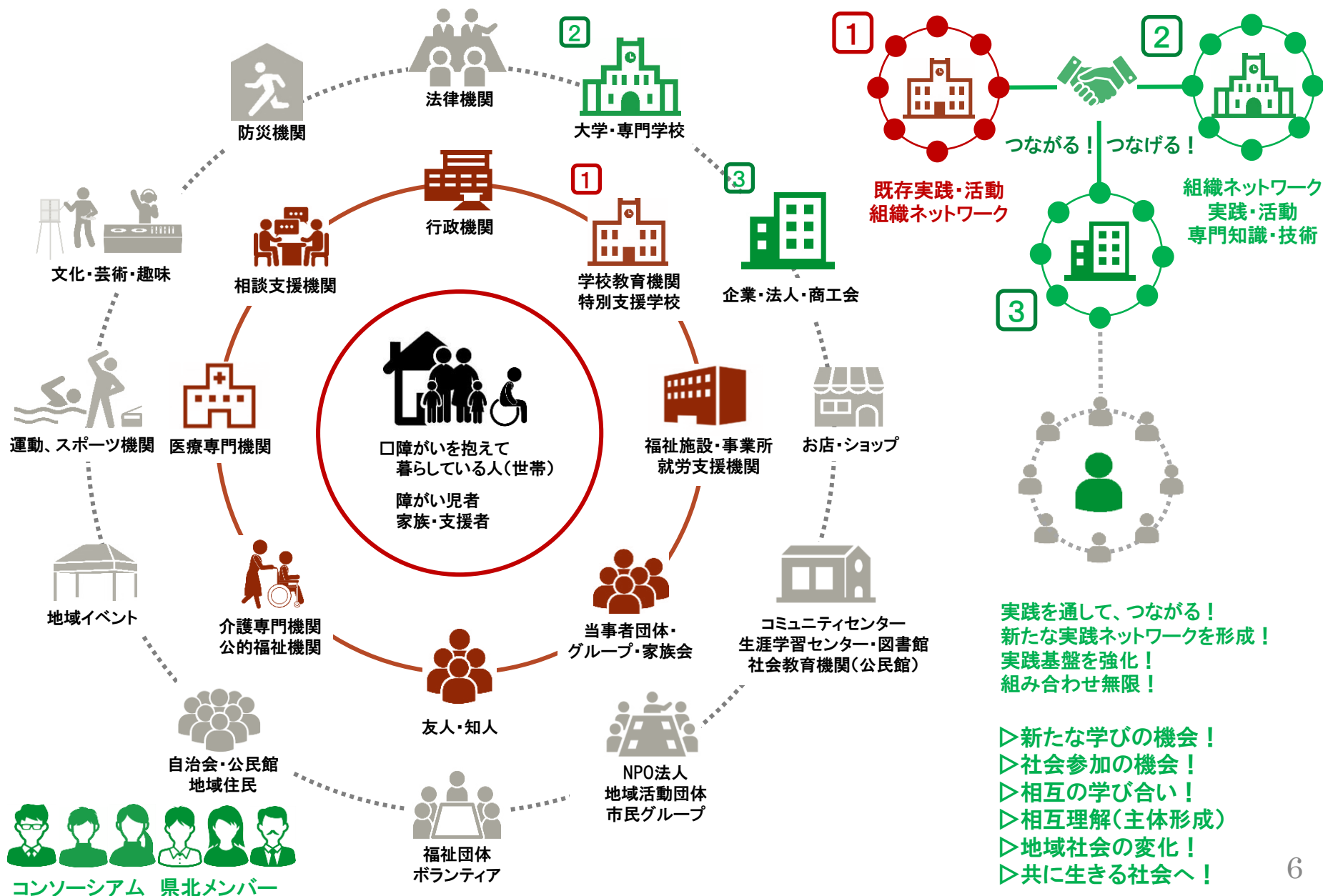
- ▷ 学びのニーズ、想い、現状を知る
- ▷ 障がいの理解(特性理解)
- ▷ 課題要因分析、可視化、地域発信・共有
- ▷ 我がごと意識の醸成



考える！動く！よりよく変える！

- ▷ 仲間づくり、人材育成、実践ネットワーク構築
- ▷ 新たな実践プログラム作成・実践(継続実践)
- ▷ 実践効果分析・評価、地域発信
- ▷ 地域における仕組化(実践サイクル)

実践プロセス(イメージ)



[実践プラン1]

1. 社会調査

(学びの**ニーズ把握**、実践情報の収集・集約・可視化、課題分析)

- ▷ 学びを難しくさせている**社会的な課題(障壁)**は？
当事者・家族・支援者の**想い**は？

2. 生涯教育に関する相談支援機関の機能強化

(情報発信・収集、**ITC活用**)

- ▷ **在宅でも学べる環境づくり**のための基盤整備

3. 実践を推進するためのネットワーク構築・強化

(仲間づくり、基盤づくり)

- ▷ 連携・協働実践の**共通認識 ※目的・目標共有**

[実践プラン2]

1. 当事者ニーズに基づく、学習プログラムの開発・実施

- ▷ 多機関・他分野協働による「場」の開発と実践
※実践をととした人財育成・資源開発
- ▷ 既存の地域実践の組み合わせによるプログラム開発・実践
- ▷ 双方向の学びの機会づくり
※その場に関わる全ての人(組織)が「学びの当事者」
- ▷ 社会教育施設や生涯学習センター機能強化

2. 障がいをもっと正しく理解するための福祉教育の充実・強化

- ▷ 障がい当事者、家族、支援者が先生！

実践1 社会調査、仲間づくり



令和3年10月23日(土) 10:30～11:30 延岡市社会教育センター
地域づくりサークル「わかあゆ」 九州保健福祉大学生ボランティア30名
※ネットワークを活用

□グループワーク実施

「障がいがあっても無くても、
誰でも学び合える仕組みづくりに必要なものは？」

「今の地域社会に必要なものはなんだ？」

大学生の意見・考え！

1. (小さいときから)ボランティアをする
2. 学校の学習活動と一緒にする
普通の学校、支援学校、分離しない
行事、イベントなど共有する
3. 支援学級とふれあう機会
(時間割の調整、修正、検討)
4. 授業(生活、道徳)の時間
5. モールなどでの展示、啓発
(共生の意識醸成)
6. 体験(障がい体験)後、障がい当事者の声や
生活の実演をとおして、相互理解を深める
(同じ世代、年代)
7. イベント開催
(共生の意識醸成、障がいの正しい理解)
障がい体験 ▷ 障がい当事者の声を聴く
エンクロス(延岡駅)、カフェ
参加が難しい、移動が難しい
▷ オンライン実施
8. オンラインを活用した情報収集・発信
悩みを持つ人の声や想いを集める
9. 小さいときから障がいのある人と関わる
教育をする
10. コミュニケーションの方法を学ぶ
(手話とか…)
11. VRなどの機材を使って、障がいを抱える
人たちの体験をできるようにする
12. 障害のある人と二人一組になってボランティア活動をする
障がいのある人と健常者が一緒にボランティア活動に取り組むことで、健常者のみの活動だと見つからない課題が見つかり、その課題は、社会全体としての課題として
もとらえられると思う
13. 障がいの有無に関わらず、意見を取り入れる
14. 差別、偏見をなくす
15. 障がいのある人にも参加しやすいボランティア活動
16. 福祉施設にボランティア活動の募集を多く呼びかける
17. 障がいの人のボランティア参加をサポート
するようなボランティア活動
18. バリアフリー化を進める
19. テレビや新聞などで、ボランティア活動のことを広める(もっと多くの人に知ってもらう)
20. 年代別のアンケートを取る。
21. 障がいのある人、高齢者が集まれる場所(交流できる場所)を増やす。
22. 障がい者、高齢者が使用しやすい交通機関を増やす(値段も安価に…)

実践2 県北メンバーによるZOOMミーティング開催！



県北ブロックMeeting

令和3年11月4日 14:00～15:30

委員、事務局関係者 10名参加

ゴール設定

県北地域における具体的実践プランの
作成に必要な材料(素材)を集める！

□3つの「問い」で、意見を事前整理

問1 「やってること」、「やりたいこと」、
「できること」、「やるべきこと」

※委員一人ひとりの

実践に対する**考え(意見・想い)**

問2 障がい児者の学びの機会を
阻害するもの(社会の課題)何？

※問1をやりづらくしている

原因・要因・社会的背景は？

問3 「だったらどうする？」

※問2を突破するために、私は？

(住民は？専門職は？行政は？)

具体的に**何を**する？

メンバー間の**本音トーク！**

想い合わせ、実践課題の把握(共有)

実践プランニングの素材集め！

メンバーの意見・考え！

「障がい児者の学びの機会を阻害するもの(地域社会の課題)何？」

※原因・要因・社会的背景は？

□障がい特性の理解

環境設定は、目に見える障がい者への配慮から進んでいない
障がいのある人の行動の理由を学ぶ必要を感じていない
お客様の扱い、腫れ物に触るような付き合い
障がい特性を理解する機会・場が必要

□専門的に関わる人が少ない(専門家の育成)

人材をボランティアに頼ることは限界がある
実践をコーディネートする機能・役割

□社会的な(障がい)理解

障がい者の雇用に対して、事業主側の理解・認識が低い
社会的な差別・偏見・排除、地域のつながりの希薄化
他人事としての共生(障がい)

□学校教育の構造

二次障害を引き起こす子どもへの手当は皆無
本人と家庭が頑張るのみ

□行政側の体制

縦割り行政、担当者の転勤、内部移動、職員の温度差、
障がいに対する理解、事業等の慣例化(例年通り)
人材、財源、内部連携(体制整備)、行政間連携

□相談できる環境がない

- 学ぶ場(機会)がない
- 学ぶための情報がない
- 学ぶための仲間がない
- 学ぶための指導者がいない
- 学ぶための支援者がいない
- 障がい特性に応じた合理的な配慮がない
- 特性のある人とのかわり方がわからない
- 多様性を認め合えていない
- 社会的な差別、偏見、排除
- 人材、財源不足
- 他人事だから(自分事として思えないから)
- 考えようとしないから(課題意識がない)
- 地域社会の現状を知らないから
- 目的・目標の共通認識(理解)
- 社会資源の地域格差(格差是正)
- 共生のための教育がなされていない

「学びの機会を阻害するもの」としては、我々の意識の欠如(無関心すぎる)ということではないでしょうか。
共に生きる社会を作っていくためには、もっと現状を知る必要があり、そのような機会を福祉とも連携して作っていく必要があると思います。

ここで問題なのは、我々は「何をどのようにしていったらいいのかわからない」ということです。

考える、話す、知る、企む！

- ▷ コンソーシアム県北メンバーの
想い、専門知識・技術、実践、活動、ネットワークを知る！



- ▷ 相互理解を図ることで、コンソーシアムメンバーとして
具体的な“Action”を想像(イメージ)する！



- ▷ メンバーの想像(イメージ)を可視化するために
Actionplan の作成を提案！

- ▷ 県北Meetingを重ねながら、
メンバーの協働によりActionplanの実践を行う！



Actionplan

実践3 Actionplanの作成！



コンソーシアム 県北メンバー

メンバーの具体的行動プランとして、アクションプラン作成を提案！

アクションプランシート（一人企画会議）

1～4の順番で“計画”の概要を考えてみましょう！

〔①計画タイトル、計画者氏名〕

タイトル 共生社会への学び合いchallenge！（仮）

氏 名 成合進也

1. 計画前の状態「だれの（どこの）」「そういう」状態を…

現 状 〔②現在の状態〕 ※直面している課題

- ☐ 他人事としての共生社会（自分事ではない）
- ☐ 人材が活用されていない（理解者、支援者、協力者、指導者、実践者）

2. 計画後の状態「だれを（どこを）」「どういう」状態にしたいのか？

理 想 〔③めざす姿・ゴール〕 ※アクション後の理想のイメージ
〔⑬いつまでに／⑭どの程度（数量）〕

- ☐ 我が事としての共生社会（意識の変容、地域実践への参画）
日常生活における一人ひとりの意識・行動変容（共生文化）
- ☐ 実践ネットワーク構築（理解者、支援者、協力者、指導者）
生涯学習活動・事業への参画
- ☐ 住民一人ひとりが我がごととして共生社会づくりの活動へ参画し、暮らしている
地域をよりよく変化させることのできる地域（基盤）を高める

テーマ「共生社会の実現に向けた生涯学習の充実」

～障がいの有無にかかわらず誰でも学べる機会の充実～

3. 原因・背景「なぜ」そういう状態になっているのか？

※「なぜ」ならばシートの活用！

原 因 〔④なぜ〕

- ☐ 知る機会、考える機会がないから
- ☐ 他人事と思っているから（無関心）
- ☐ 障がいについての正しい理解（認識）がない
- ☐ 自分基準で物事を考え、人を分別している
- ☐ 見えない障がいへの理解と支援
- ☐ 障がい特性への理解と対応
- ☐ 社会的な差別、偏見、排除
- ☐ 誰がかやるだろうと思っているから
- ☐ どのように関わってよいのかわからないから
- ☐ 総論賛成、各論？
- ☐ 人と人をつなぐ調整役や機能が脆弱だから
- ☐ つながる機会がないから（人、活動）
- ☐ 余裕がない

4. 企画「計画前」を「計画後」にするためにどうするのか？

行 動 〔⑤いつ／⑥どこで／⑦誰が／⑧誰に／⑨誰と／⑩何を〕
〔⑪どのように／⑫いくらで〕

- ⑤ 令和4年4月～令和5年3月
※月1回 計12回プログラム
- ⑥ 公民館／コミュニティセンター／オンライン
- ⑦ 日向市地域福祉コーディネーター連絡会（おせっ会）
日向市地域福祉サポーター連絡会（がむしやら応援団）
- ⑧ 行政関係者、地域住民、活動者、実践者、当事者、家族
※コンソーシアムネットワーク活用
- ⑨ 活動団体（当事者・家族・支援者）／行政機関（教育・福祉）
- ⑩ 共生社会を推進する仲間づくり実践（福祉教育実践）
「出会い」と「対話」をとおして、相互理解を深め、ゆるやかな関係性を築き、
日常生活における一人ひとりの意識・行動変容を目的とする。
- ⑪ 住民Meeting／ワークショップ／勉強会／講座／フィールドワーク／地域活動体験
- ⑫ 10万円（要調整） ※おせっ会活動費

実践4 Actionplanの実践！



地域福祉meeting 企画・開催！

[参加者] 25名

- 福祉部員
- 消防団
- 障がい当事者・家族
- teとteままの会

令和3年11月30日(火)19:30～21:00亀崎中区公民館

目的(何のために…)

地域関係者が

- ▷地域に暮らす障がいのある人や家族の想いや日常生活の状況を知る
- ▷災害も含めた日常からの地域の支え合いについて考える
- ▷地域関係者の想いを合わせ、相互の関係づくり

実践4 Actionplanの実践！

Meeting1 亀崎中区は、障がいのある人やその家族が暮らしやすい地域だろうか？

オンラインで公民館と自宅をつなぎ、障がい者やその家族の想い、日常生活上の困りごとや不安なことを伝えてもらい、障がいについて考える機会（知る場、学ぶ場）とした。

特に災害発生時の避難行動、避難場所での医療機器への電力の問題など、いのちを守るために現状の災害対応では難しい状況があることの課題提起がなされた。

[参加者からの質問]

- 行事等になかなか参加できないと思いますが、住民との交流はどうしてますか？
- サポートにはどのくらいの人手が必要か？
- 1番困っていることは？
- 消防団として何ができるのか？
- 主に介護をしているお母さんの日々の生活、自由時間はどれほどとれるのか？（自分のケアは？）
- 言葉をどの程度、認識、理解しているのか？
- 体調不良の時など替わってもらえる人がるのか？
- 夜中（就寝時）は安心？
- 電源がないときは、どのくらいの時間対応できるのか？
- 介助するにおいて、気をつけることはどんなこと



実践4 Actionplanの実践！

Meeting2 感想・想い

- 外出をするときは本当に**大変**なんだなあと感じました。
- 当たり前のことができる環境整備、地域の理解。
- 「障がい」について考え、**仕事を行っていきたい**と思った。
- 自分の会社にも障がいのある方が働いていますが、あいさつ、まじめです。teとteままの会に**書いてあるとおり**だと感じました。
- この子一人残して死んでもいいと思える地域とは…
「専門性より**関係性**…」



Meeting3 住民として私たちがやるべきこと

- 障がいのある人たちの避難を体験**して現状を知る。
(困ったこと、準備が必要なこと)
- 得た情報を**共有し、考える機会**を増やしていく。
- 地区行事も障がい者が安心・安全に参加できる場所づくり**
- 障がいのある人をもっと地域の人に知ってもらうための活動を！(班長会等での周知)
- 障がい児者、家族が参加できる地域の**交流イベントの開催(イベントの工夫)**
- 個別支援計画の策定→**行政への働きかけ**→「teとteままの会」と協働で！
- 災害発生時でなくても指示してもらえれば消防団はほとんどの**力仕事はできます**。
- 関心を持つ、機会を作る、地域で使える資源の把握、行政への働きかけ

これからのAction！「一方通行ではなく、**双方向の地域実践！**」

1. 地域防災訓練の見直し(時期、内容の見直し)、**個別避難計画の作成！**
2. 障がいに特化した避難訓練実施し、**地域共有(動画にて記録、編集し、住民で検証する)**
3. 住民相互の関係づくり、社会参加の機会づくり(相互の学び合いの機会づくり)

なぜ、この地域の中でできるのか！



福祉部(課題解決に取り組む地域組織) ニーズを持つ人



つながる！
つなげる！

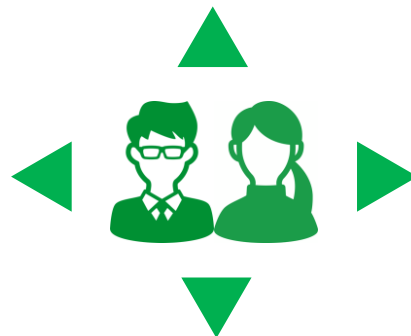


「他人事ではなく、自分のこととして…」

地域住民が主体的に、地域福祉を推進する

知る、話す、共有、考える、決定する、行動する
結果を検証・分析、仕組み化する ※サイクル

役割・機能を持っている



コーディネート機能

調整力、実践力、推進力、
突破力、洞察力、発信力…

「…課題!？」

この事業推進において、
だれが、どの機関が
その機能を担うのか？

Meeting後の参加者(地域)の動き！

▷福祉部関係者が行政防災担当へ相談、
状況報告、協力依頼

▶個別支援計画の状況確認

▷区長、役員への報告、地域行事の提案
障がいのある人が参加しやすい行事？

▶避難訓練時期・方法の見直し

▷障がいのある人の地域生活の理解

▶役員・班長会等での周知

▶我がごと意識の醸成

▷障がいを対象とした防災避難訓練

▶世帯訪問、つながりづくり、支援内容把握

▶避難計画作成、計画に基づく行動確認

▷交流イベントの企画・実施

▶出会いの場づくり、日常からの交流



課題解決実践ネットワーク

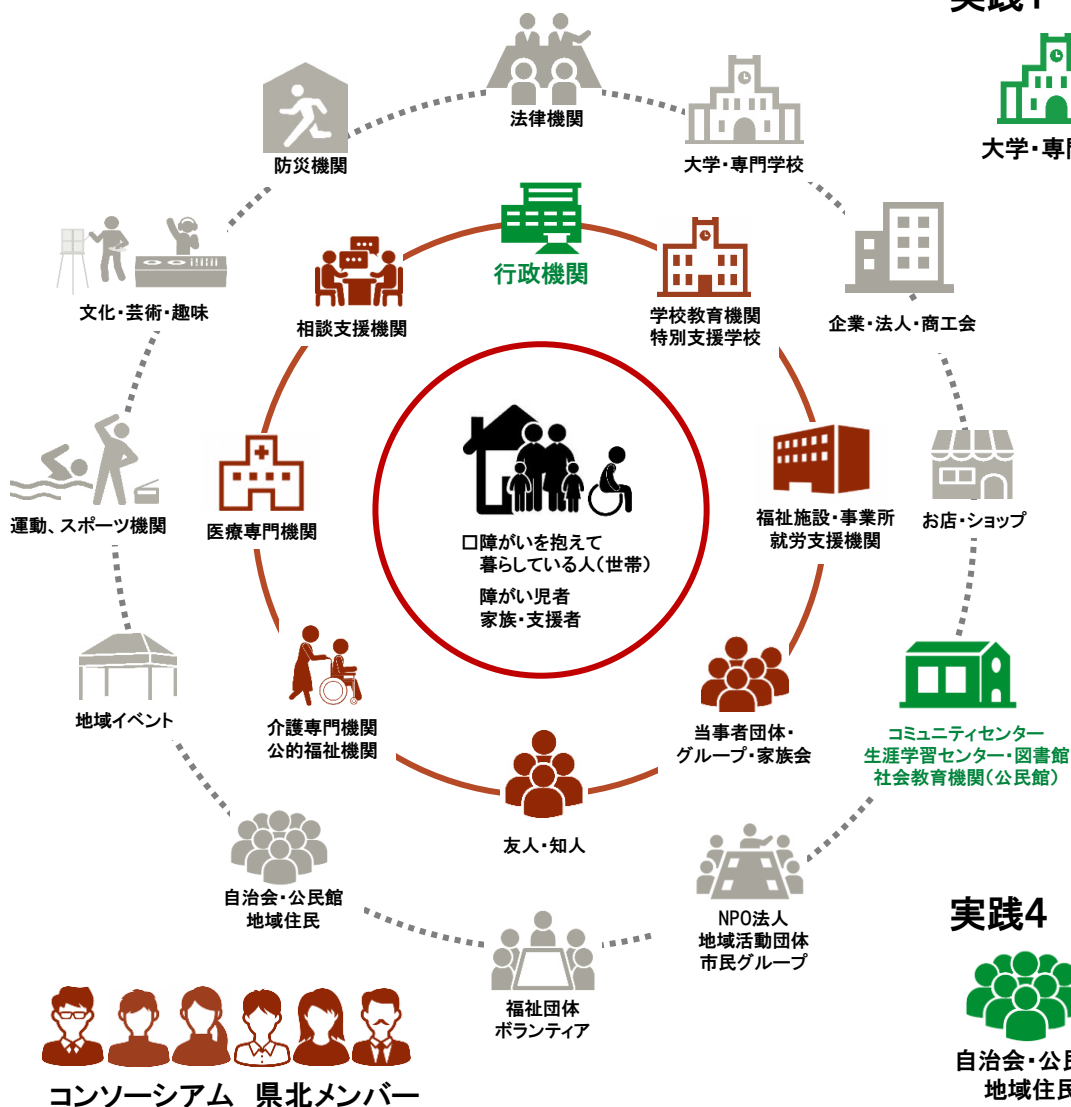


消防団(防災・災害対応機能)

「難しいよ… それぞれの点を線で結ぶ！ ただ それだけ…
ごちゃ ごちゃ 考えるより、まず 動きだそう！
動いてみないと、何もはじまらないし、課題も見えてこない！」

実践課題…

この事業推進において、だれが、どの機関が
実践のコーディネート機能を担うのか？



実践1 社会調査、仲間づくり



実践2 県北メンバーZOOMミーティング！



実践3 Actionplanの作成！



実践4 Actionplanの実践！



□個別支援と地域支援の一体的な展開

地域づくりは、常に、一人のニーズからはじまる。

□福祉教育機能の発揮！

人材育成、組織化、仲間づくり、協働実践のきっかけづくり、動く動機！

□ごちゃまぜの協働実践！

協働の面白さ、効果の実感、人の役に立つ喜び、新たな価値の創造。
積極的な対話と実践的な学びの提供。

□動く、動き続ける！

より良い変化を想定した連続性・継続性のある実践展開。

□“我が事”は出会いと協働から生まれる。

実践を通して、地域生活課題に直面する場面をいかに演出できるか？

□地域資源は変化できる。柔軟に変化させる。

1つじゃ、1人じゃ限界があるけど… ○○と、○○と…

“と”の連続で可能性は無限大に広がる。 組み合わせ自由！